

# HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

## 目次

<b>Preface 巻頭言</b>	
「令和元年度 各研究室との意見交換」	大段 秀樹 1
<b>Greetings ご挨拶</b>	
「就任のご挨拶」	蓮沼 直子 2
「就任のご挨拶」	野村 渉 2
「就任のご挨拶」	高橋 真 3
「就任のご挨拶」	田邊 和照 3
「就任のご挨拶」	中西 一義 4
「就任のご挨拶(全身の健康はお口から)」	宮内 睦美 4
「就任のご挨拶」	神沼 修 5
「細菌研究は面白い！」	小松澤 均 5
「教授就任のご挨拶」	太田 耕司 6
「就任のご挨拶」	堤 保夫 6
「就任のご挨拶」	保田朋波流 7
「就任のご挨拶」	高橋 信也 7
<b>My Motto 座右の銘</b>	
「為せば成る！」	小澤孝一郎 8
「人生は流れだ」	砂川 融 8
<b>Activities 新設講座紹介</b>	
「医療のためのテクノロジーとデザインシンキング」	田淵 仁志 9
「リキッドバイオプシー共同研究講座について」	田原 栄俊 9
<b>Research Frontline 研究最前線</b>	
「悪性中皮腫の病理診断のために有用な新規マーカーの探索」	武島 幸男 10
「口内炎に関する研究-ベーチェット病やがん患者における検討」	内藤真理子 11
<b>Air Mail 広大から海外へ留学している若手からの便り</b>	
「米国カリフォルニア大学デービス校便り」	福戸 敦彦 12
<b>編集後記</b>	日野 孝宗 12

## 令和元年度 各研究室との意見交換

大学院医系科学研究科長 大段 秀樹



本年6月から8月にかけて、各研究室の皆さんと意見交換の機会をいただきました。研究力強化、国際化、社会連携、外部資金獲得の実情と対策、2019年度学内予算編成における部局総枠予算、学際的研究推進部会の活動、統合生命科学研究科との連携、今後の人員措置申請などに関して、皆さんから貴重なご意見を伺うことができました。

研究力強化に関しては、准教授・講師クラスの先生からも研究環境整備に関する積極的なご意見をいただきました。医療系分野の先端的研究を推進し、国際的な成長力・競争力を確保し発展させていくためには、日々高精度化・高速化していく先端的研究機器をいち早く導入し活用することが必要です。しかし、個々の研究室レベルでそれを賄うことは現実的ではなく、本学では、自然科学研究支援開発センター（N-BARD）が、高度先端研究機器・設備の集約化と一元的管理・運営を担う研究支援体制がとられています。霞キャンパスでは檜山英三教授を中心として大型分析機器が集中管理され、研究者支援を実施されています。今後、医系科学研究科ではN-BARDとさらなる連携を深め、各研究室の支援ニーズを定期的かつ継続して集約し、益々の環境整備を図る所存です。

大型分析機器の共同利用の件に限らず、研究環境の整備に関しては以下に挙げるように様々なアイデアができました。

1. 各分野・研究室で所有している研究機器を柔軟に利用し、知識や技術を共有することで、研究が円滑化・活性化するのではないかと。
2. 霞キャンパスで貸し借りが可能な研究機器や供与可能な疾患モデルマウス等のリストを作成し公開してはどうか。
3. 学際的研究推進部会に准教授・講師・助教が参加できる仕組みを作り、部会を活性化すべき。
4. 准教授・講師クラスの研究実務者の大学運営への参画として「霞キャンパス 研究力強化推進ワーキンググループ」を作り、前述のアイデアを具現化する。

統合生命科学研究科との連携についても今後の課題です。双方の研究内容を知る機会を設けて欲しい、東広島と霞のキャンパス間の地理事情が律速とならない工夫が必要などの要望に応えるためには、Internet of Things (IoT) などテクノロジーを積極活用することで、スマート教育・研究システムの構築が求められます。若手研究者が必要な研究技術を効率的に修得できるように、そして皆様の研究の推進に貢献出来るよう、医系科学研究科はこれからも努力して参ります。

